

NI-Youth がハロウィンパーティーを開きました お菓子の家作りで密度の濃い交流

金井勇樹 (NI-Youth)

10月21日(土)、NI-Youth は実習コミュニティホールでハロウィンパーティーを開き、みなでお菓子の家作りにチャレンジしました。全部で13人の参加者が集まり、そのうち外国人は全部で6人、国籍もウズベキスタン、台湾、韓国、アメリカなどでとても盛り上がりました。

お菓子の家作りといえば一般に難しいイメージがあって、特に屋根を作ることに苦戦し、完成したとしても屋根のない家になってしまうことが想像されがちです。始めるまでは我々もそう思っていて、完成しなくてもみんなで楽しく作ればいかなと思ってスタートしました。

しかしいざ始まってみると、デザインが得意な人が家の設計をし、接着剤を作る人、家を組み立てる人、崩れないためにどうすればいいか案を出す人と、メンバーそれぞれが自分の得意な分野に分かれ、とても真剣に取り組みました。とは言っても、やはりそんなに簡単なことではなく、お菓子の家は何度も崩れ、屋根をつけることは諦めようかとか、設計通りに作るのとは諦めようかという意見も出始めました。しかし、絶対に屋根をつけたいと諦めない留学生がいて、ではどうすればいいのかとみんなで話し合い、その意見をもとにもう一度屋根の作成を始めました。

その間にすでに完成していた家が崩れてしまったこともありましたが、その度に修復し、ついに完成した屋根とその他を合体する時が来ました。ウエハースで屋根を軽くしてはいたものの屋根全体としては結構重くなっていたので、崩れる心配をしながら慎重に屋根を乗せてみると、なんと途中の修復により家がかなり頑丈になっており、少し押したり揺ら

したくらいではびくともしない家が完成しました。

人数を半分ずつ2チームに分けて家作りをしたのですが、2チームとも屋根のある家を完成させることができました。家作りが終わった後のレクも考えていたのですが、その時間はありませんでした。

完成後、とても残念でしたがすべて解体してみんなで食べました。壊そうとしても壊せないくらいしっかりしているものもありました。みんなで真剣になって作ったことで、今までにないくらい密度の濃い交流ができ、予想外の大成功をおさめました。



今回の参加メンバー(上)。完成したお菓子の家(左)。それぞれ分担した作業に集中(下)。

